

## 母なる太陽

### 宇宙へ飛び出せ—第2巻—

発売：財団法人 宇宙科学振興会

VHS, カラー, 28分 定価：3300円

これは文部省宇宙科学研究所が、国際宇宙年(1992年)を記念して企画し、NHKエデュケーションが制作した、宇宙科学啓発ビデオ「宇宙へ飛び出せ」シリーズの第2巻である。第1巻は「宇宙をさぐる—ロケット・人工衛星—」というテーマで制作されており、これに引きつづくテーマがこの「母なる太陽」というわけである。

このビデオでは、我々の住むこの地球に生命を育む源となった「太陽」に対して、人類がどのように科学のメスを入れていったのか、また現在の天文学者たちは最先端の技術を駆使して太陽をどのような視点で見、考え、どのような認識をしているのか、ということについてその一端が伺えるような内容になっている。具体的には“1. プロローグ 2. 太陽を観察してみよう 3. 可視光で見た太陽とその内部 4. 皆既日食時に見た太陽 5. H $\alpha$ 線で見た太陽 6. X線で見た太陽 7. 更なる挑戦(太陽観測ネットワーク)”という章立てになっている。最先端の技術により得られた映像としては「ようこう(SOLAR-A)」によるX線で見た太陽が盛り込まれている。解説には、宇宙科学研究所の秋葉所長や、太陽フレア物理学が専門の国立天文台の小杉教授が加わり、天文学の初心者にもわかりやすい。天文マニアも楽しく見ることができるだろう。また、簡単な解説書がついているので、学校の教材としても利用可能だと思う。教材として扱う場合は小学校の高学年から高校生という幅広い生徒が対象になると思われる。小学生の場合は、普段何気なく見ている太陽の様々な映像を目に焼き付ける程度に終わってしまうかもしれないが、それでも太陽に対する見方が変わるという点では有用であろう。より高学年の生徒を対象とする場合は、更に一步踏み込んで、

より深く太陽を理解することができるだろう。学年に応じて目的を定め、補助教材などを作ってこのビデオを活用すれば理科の、あるいは地学の教材としても適切なものになると思う。興味をもたれた方は是非、利用することをお勧めする。天文学を研究する方の場合、太陽を専門外とする方であれば、「ようこう」のMovieの部分のナレーターの解説の一部に抽象的な表現があり、少々理解しにくい箇所も含まれてはいるが、「ようこう」がとらえた太陽のMovieやスカイラブの撮影した写真などは興味深く見ることができるだろう。

学校教育において天文の分野が削減されている今日、このような天文学の初心者向けのビデオを天文学のより多くの分野で作る、一般の人々にアピールすれば、学校教育における天文学のお寒い状況も少しは改善されるのではないだろうか。

新永浩子(東京学芸大)

## 「天体光電観測ガイドブック」

日本アマチュア光電観測者協会(JAPOA)編  
(監修 北村正利)

日本プリントセンター 1993年3月発行  
195頁, B5版, 非売品  
JAPOA事務局(Tel: 044-922-4731)

JAPOA(Japan Photoelectric Observers Association)が1982年に結成されて10周年を記念して上記出版物が上程された。この本は副題に「初心者のために」とあるように、天体観測を始めた人、光電観測をやってみたがどうして良いかわからない人、光電観測をやってみたが道に迷い込んでしまった人などを対象に書かれている。初心者のガイドブックとは言うものの会結成のいきさつ、研究に耐えうるデータの生産までの苦心、後継者の育成、教育大学における天文教育の悩みなど、生々しい現場報告がかなりのスペースを占めている。いわゆる教科書では体系化された知識の記述で終始するが、失敗談も含めて経験談がこれから始めようとする人の貴重なガイダンスにな